

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（28～30年度：計画作成主体：沼田町農業再生協議会）（北海道）

取組の概要

取組の概要：①調製精度向上による安定的な高品質米出荷量の確保
②農薬節減米・YES!Clean米の作付面積増加
③雪冷熱を活用した利雪型農業の推進による「地域ブランド」「米産地」としての知名度向上

計画作成主体：沼田町農業再生協議会
対象品目：水稻（産地面積：3,362ha（H28））
主な取組主体：沼田町
成果目標：契約栽培割合の10%以上の増加
かつ50%以上
助成金の活用：整備事業（穀類乾燥調製貯蔵施設）
状況

ポイント

調製能力を向上させることで受入体制を構築し、農薬節減米・Yes!Clean米の面積拡大を図り、主食用米の作付拡大を図ることにより、契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上を実現。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状:H26年度〉

作付面積：3,273ha
契約取引数量：7,371 t

- ①特色ある米づくりを目指すものの、施設能力に限界（調製施設内で格差）
- ②実需者ニーズ（高品質保持）への対応不安
- ③販売戦略（農薬節減米Yes!Clean米生産拡大）を躊躇
- ④近年の異常気象による高温障害被害粒（乳白・腹白）への対応が困難

〈目標:H30年度〉

作付面積：3,396ha
契約取引数量：13,862 t

- ①特色ある米づくり（新ブランドの確立：プレミアム雪中米等）
- ②産地収益力の強化を図る



産地体制

地域の関係者（沼田町、北いぶき農業協同組合、農業関係者等）が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

○雪冷熱を活用した利雪型農業の推進による「地域ブランド」「米産地」としての知名度向上に向けたPRを実施。

〈道・市町村単独事業〉

○「新時代農業経営高度化支援事業」による、乾燥調製施設以外に施設園芸作物等への利雪型農業の推進。

取組成果

〈事業実施による直接効果〉

色彩選別機の能力が強化されることにより適期受入が可能となり、刈遅れによる品質低下のリスクが回避された。

〈事業実施による間接効果〉

施設能力が不足していたことにより実施していた生産調整分の解消を行い農薬節減米・Yes!Clean米を含めた主食用米作付面積を増加することで産地収益力の強化を図れた。

契約取引割合が46.5%増加
(達成率155%)

